

守山企業景況調査報告書

(第11回)

平成24年4月～平成24年6月期 実績

平成24年7月～平成24年9月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 24 年 4 月～平成 24 年 6 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	20	100.0%
製造業	13	13	100.0%
建設業	12	12	100.0%
サービス業	20	20	100.0%
卸売業	6	5	83.3%
合計	71	70	98.6%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 24 年 4 月～平成 24 年 6 月、見通しを平成 24 年 7 月～平成 24 年 9 月とし、調査時点は平成 24 年 7 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 24 年 4 月～6 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 24 年 4 月～6 月期の調査結果では前回調査に比べて、売上高 DI、業況 DI、採算（経常利益）DI と資金繰り DI が主要 4 指標全てで下落という結果になった。また、7 月～9 月期見通しでは、業況、売上高、採算（経常利益）、資金繰りの主要 4 指標全てで上昇となっている。

<業況>

平成 24 年 4～6 月期の業況 DI は▲35.3 と前回調査に比べて 4.9 ポイントの下落となった。業種別では、小売業、製造業、卸売業が前回調査より高い値であったのに対して、建設業、サービス業では前回調査より低い値となった。

平成 24 年 7～9 月期見通しでは、建設業、サービス業で DI は上昇し、製造業は横ばい、小売業、卸売業は下落となっている。

<売上高>

売上高 DI は▲44.3 と前回調査と比べて 20.4 ポイントの大幅な下落となった。業種別では、製造業が前回調査を上回る DI 値である他は、小売業、建設業、サービス業、卸売業の 4 業種で DI 値が前回調査を下回った。

平成 24 年 7～9 月期見通しでは、全体では 22.9 ポイント回復の▲21.4 となっている。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）の DI は▲50.0 となった。これも前回調査に比べて 5.1 ポイント下落している。業種別では、小売業と製造業が前回調査よりプラスの DI となったが、建設業、サービス業、卸売業は前回調査よりマイナスの DI となった。

平成 24 年 7～9 月期見通しでは、全体 4～6 月期に比べて回復となっている。

<資金繰り>

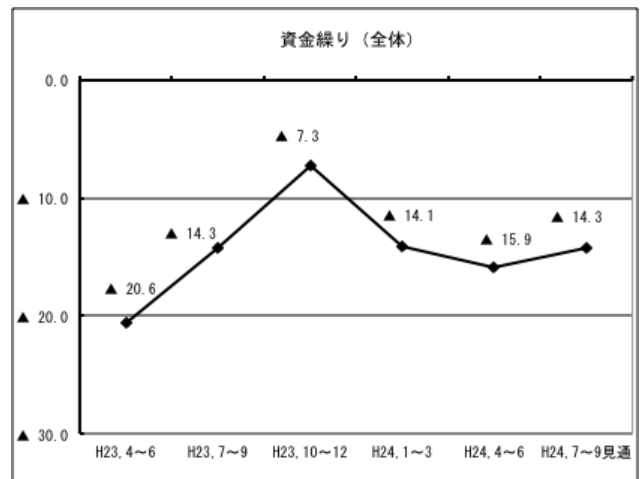
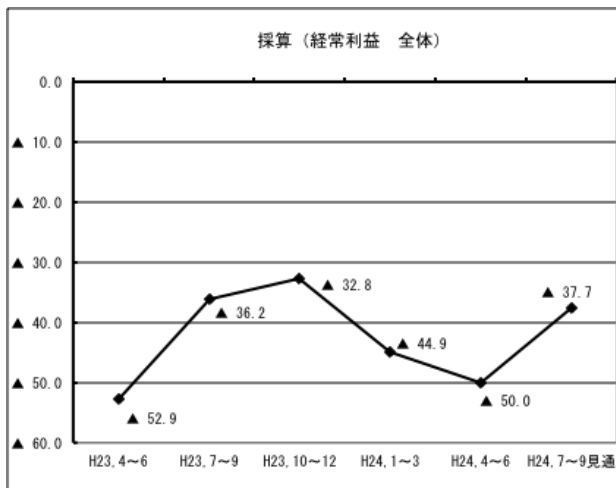
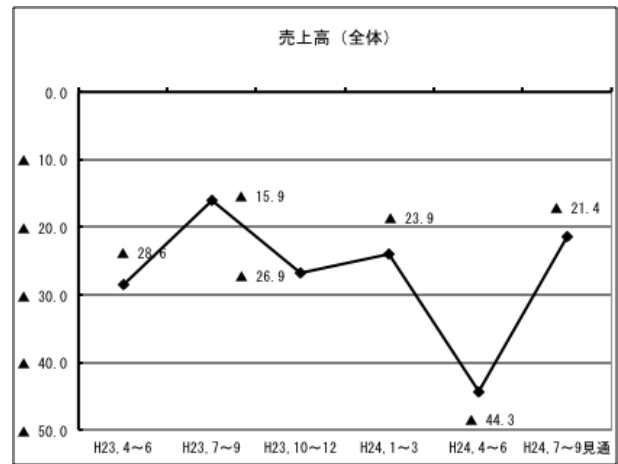
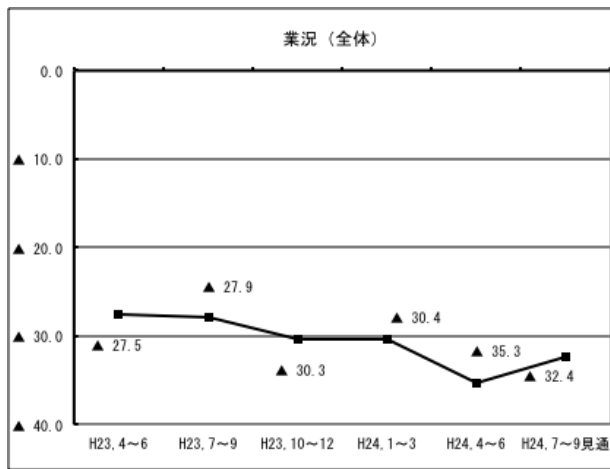
資金繰りの DI は▲15.9 と前回調査に比べて 1.8 ポイントの下落である。業種別では、小売業と卸売業が前回調査より高い値となり、製造業、建設業、卸売業は前回調査より低い値となった。

平成 24 年 7～9 月期見通しは▲14.3 と 4～6 月期に比較すると少し回復している。

<その他の意見>

- ・関西と関東では競争力が違います。競争がない所には発展がないと思います。
- ・地域物産づくりを目的にやっているが、行政その他の援助が欲しい。

- ・技術力の国外流出に対する法的規制が必要なのではないか。
- ・東日本大震災以来の消費意欲の低下に加え、節電、将来への不安、インターネット、大型店の進出で消費マインドは低下をたどる。政権が増税路線になれば、小売は壊滅的な打撃を受けると思う。



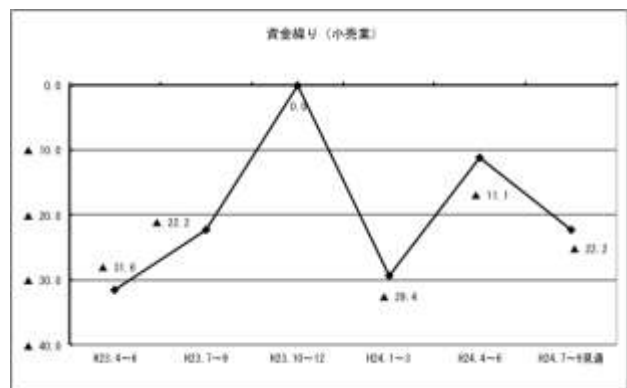
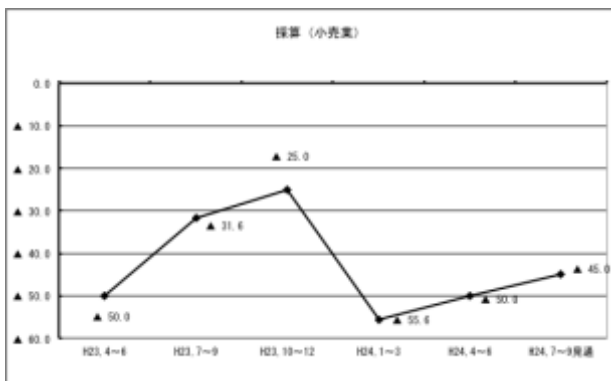
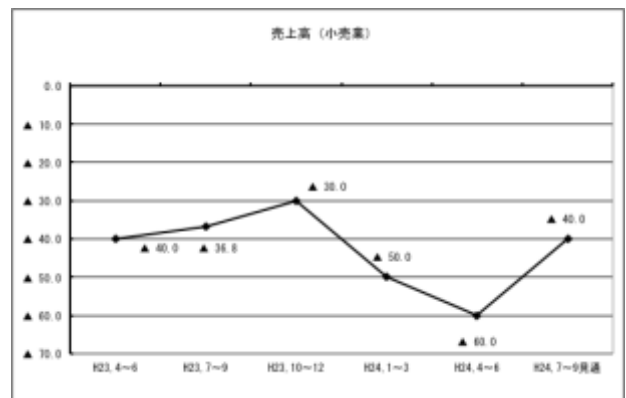
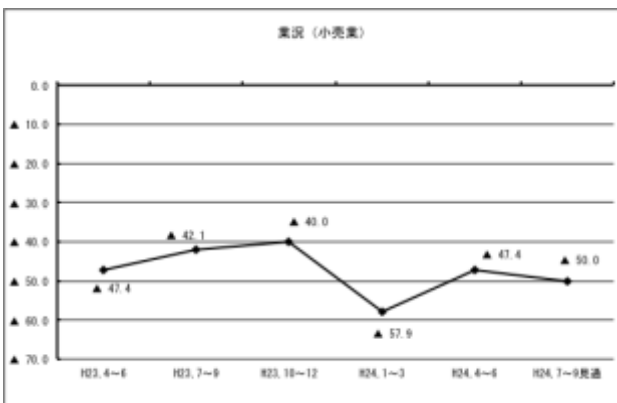
小売業

小売業の4～6月期業況DIは▲47.4と前回調査に比べて10.5ポイント回復した。この値は平成23年4～6月期と同じであり、その後少しずつ回復したものが、前回の平成24年1～3月期に▲57.9と大きく下落し、再度▲47.7まで回復したものである。しかし、7～9月期見通しでは、▲50.0と悪化見通しとなっており、1年前のように回復の循環に入るとは言い切れないようである。

売上高DIは▲60.0と過去最低を記録した。前回調査の▲50.0をさらに10ポイント下回る値である。前々回調査が▲30.0であったので、半年間で30ポイントも下ったことになる。7～9月期の見通しでは▲40.0と20ポイント回復という値である。

採算（経常利益）DIは▲50.0となった。前回調査では▲55.6であるので、5.6ポイントの回復である。採算は過去1年を見ると業況と同じようなカーブを描いて推移している。前回調査の▲55.6が最低値で、今回調査の▲50.0は平成23年4～6月期と同じ値になっている。ただ、7～9月期の見通しでは、採算は▲45.0と上向きの値になっているので、この点は業況と違う動きになっている。

資金繰りDIは▲11.1と前回調査よりも18.3ポイント上昇した。前回調査で29.4ポイント下落であったので、かなりの回復である。7～9月期見通しでは逆に▲22.2となっているので、このまま回復カーブということではなさそうである。



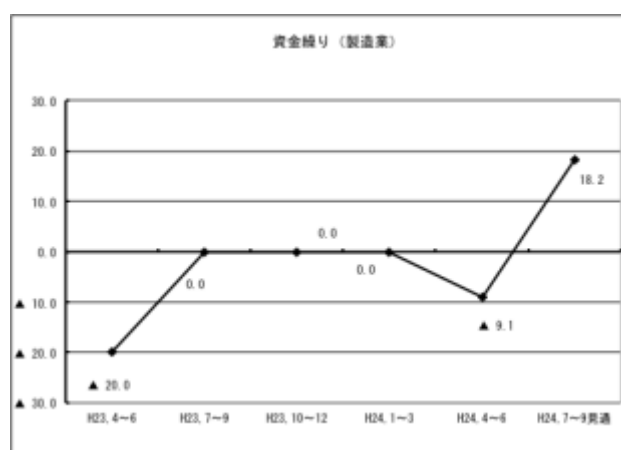
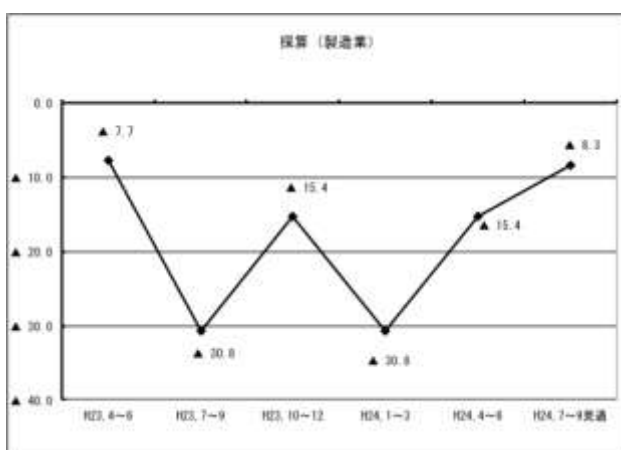
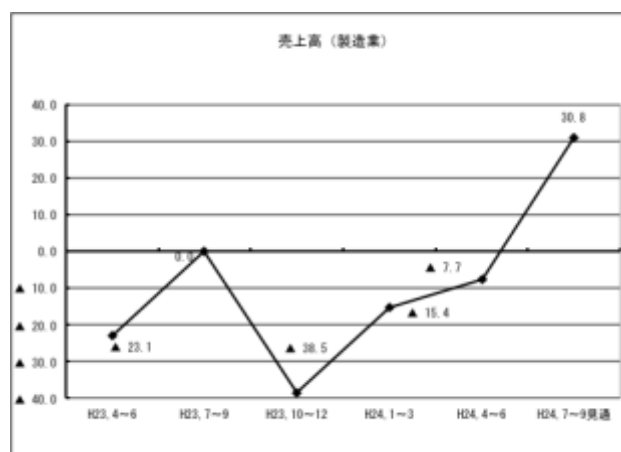
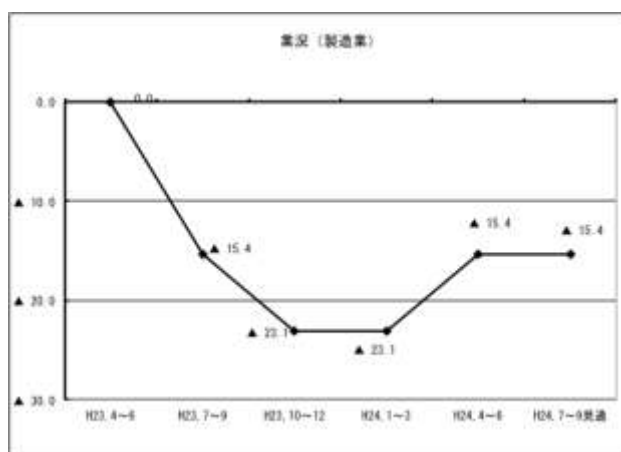
製造業

製造業の業況DIは▲15.4と前回調査に比べて7.7ポイント上昇した。平成23年7～9月期が▲15.4、その後2四半期連続で▲23.1となり今回調査で▲15.4となっているので、下落基調から上昇基調へ転じたと見ることもできる。平成24年7～9月期見通しが▲15.4であることも下落基調が転換したと見ることができる。

売上高DIは▲7.7と前回調査より7.7ポイント上昇した。売上高も2四半期連続のポイント下落から上昇に転じている。平成24年7～9月期見通しが30.8と大きくプラスに転じていることから、一気の回復も十分に考えられる。

採算（経常利益）DIは▲15.4と前回調査から15.4ポイント上昇した。採算は過去4四半期で▲30.8、▲15.4、▲30.8とジグザグに推移し、今回はこの推移通りに▲15.4となった。平成24年7～9月期は▲8.3となっているので、このジグザグから抜け出し、回復カーブに入るかもしれない。

資金繰りDIは▲9.1と前回調査より9.1ポイント下落した。3四半期連続で0.0であったので、マイナス値になること自体が問題視されそうであるが、7～9月期見通しでは、18.2とプラスに転じており、季節的な要因も考えられる。



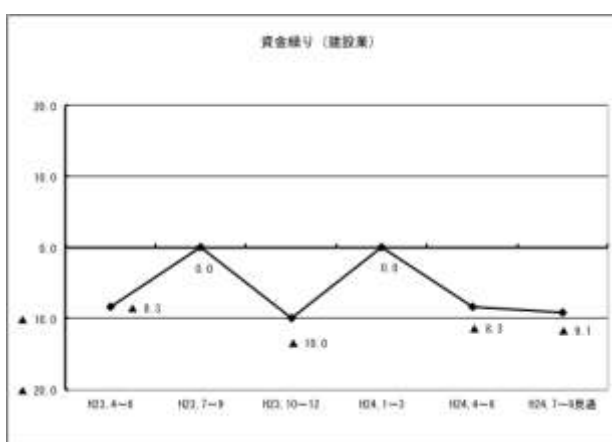
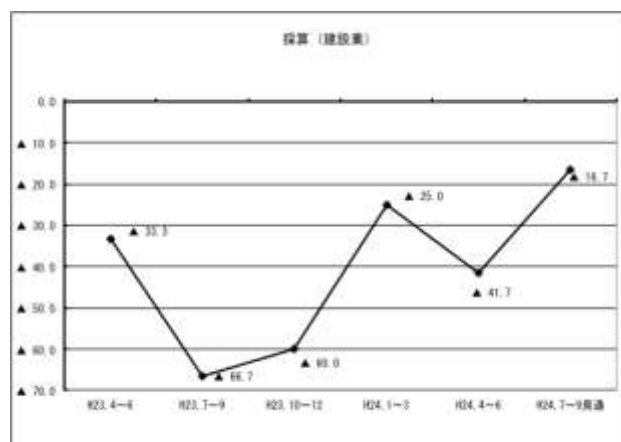
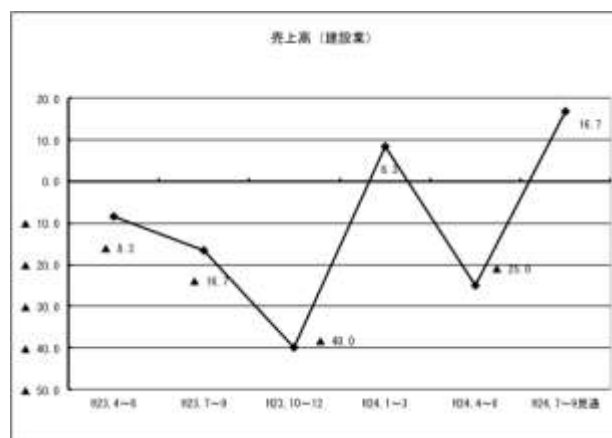
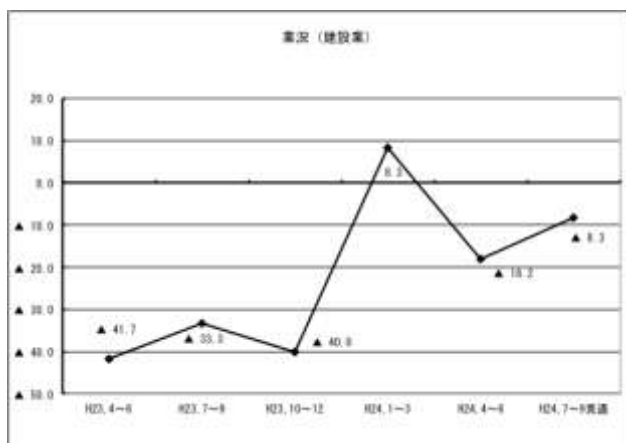
建設業

建設業の業況DIは▲18.2と前回調査より26.5ポイント下落し、マイナスの領域に転じた。前回調査で8.3とプラスの値を示していたが、プラスの値であったのは前回だけであった。ただ、過去1年をふり返ってみると、▲41.7、▲33.3、▲40.0、8.3という値の変化であることから、今回の▲18.2はマイナス幅としては大きいとは言えないようである。

売上高DIは▲25.0と33.3ポイントのマイナスであった。業況と同様にプラス指数になったのは、前回調査のみであった。しかし、7～9月期見通しが、16.7とプラスに転じていることから、先行きは暗くないようである。

採算（経常利益）DIは、▲41.7と前回調査に比べて16.7ポイントの下落であった。建設業の他の指標では前回調査でプラス指数になったのに対して採算DIはプラスに転じることなく下落してしまった。7～9月期見通しで▲16.7と回復の兆しが見えるので期待したい所である。

資金繰りDIは▲8.3と前回調査に比べて8.3ポイント下落した。資金繰りは過去1年館を見ても0から▲10を往來するような動きを見せているので、今回もその動きの範囲内であると考えられる。7～9月期も▲9.1であり、大きな回復や悪化といった動きはなさそうである。



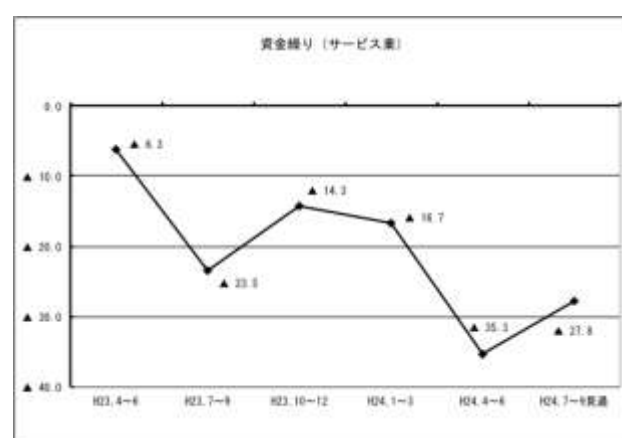
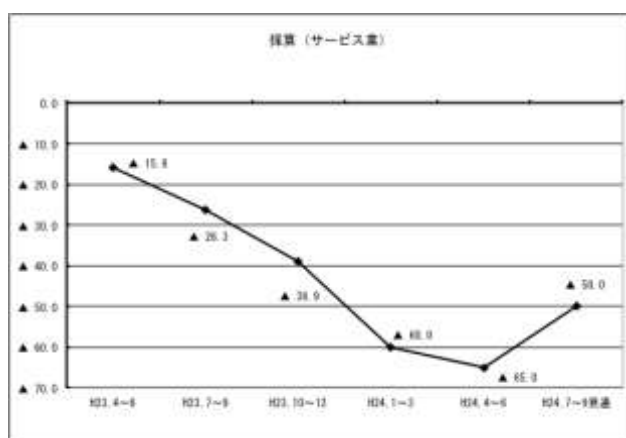
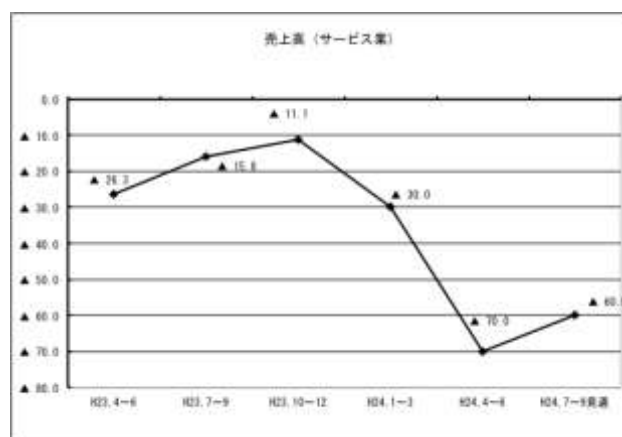
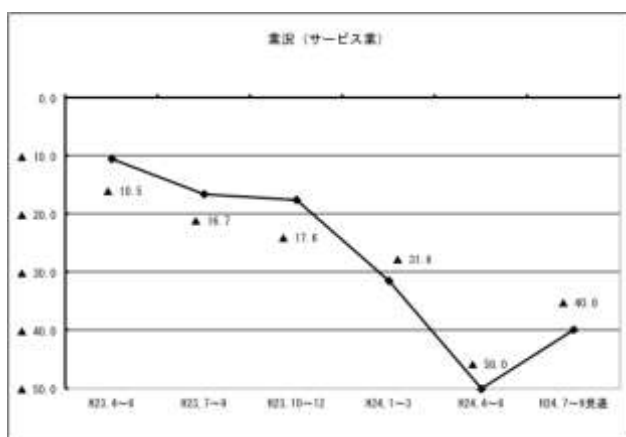
サービス業

サービス業の業況 DI は▲50.0 となり前回調査に比べて 19.4 ポイントの下落であった。過去 1 年を見ても DI 指数が前回より上昇することがなく、4 四半期連続の悪化である。しかし、7～9 月期見通しでは▲40.0 とようやく回復の見通しがでてきているので、今後を期待する。

売上高 DI は▲70.0 と前回調査より 40 ポイントの大幅な下落である。業況と相まって、サービス業の苦しい状態が鮮明になっている。7～9 月期は少し回復して▲60.0 の見通しであり、これも今後を期待するよりない。

採算（経常利益）DI は▲65.0 とこれも 4 四半期連続の悪化である。7～9 月期は▲50.0 とこちらも少し回復する値になっているので、次回の調査結果に期待したい。

資金繰り DI は▲35.3 となった。これも前回調査より 18.6 ポイントの下落である。資金繰りは連続で下落するのではなく、ジグザグの動きを見せている。7～9 月期見通しでも▲27.8 と少し回復の値となっているので、このまま悪化を続けるということはないと期待したい。



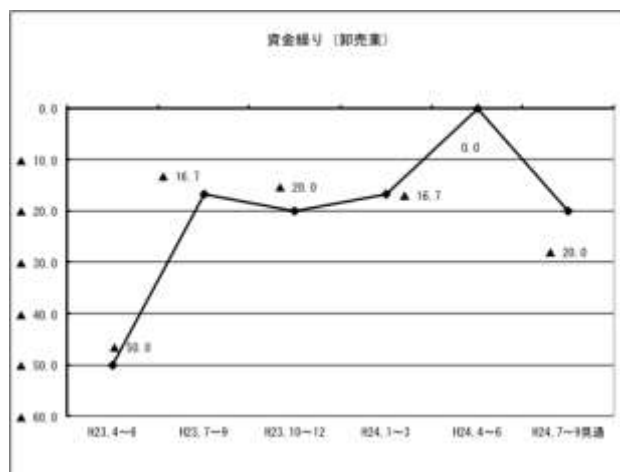
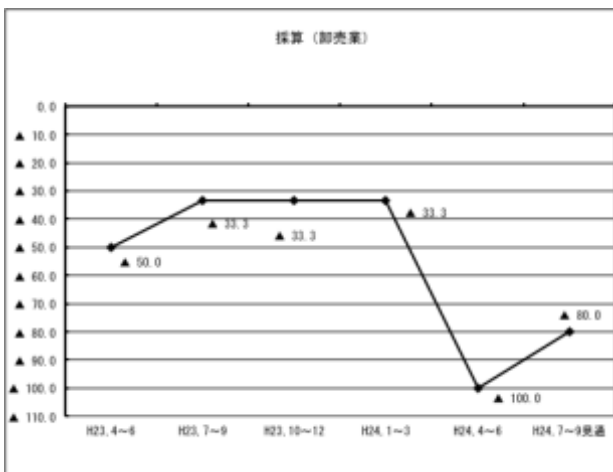
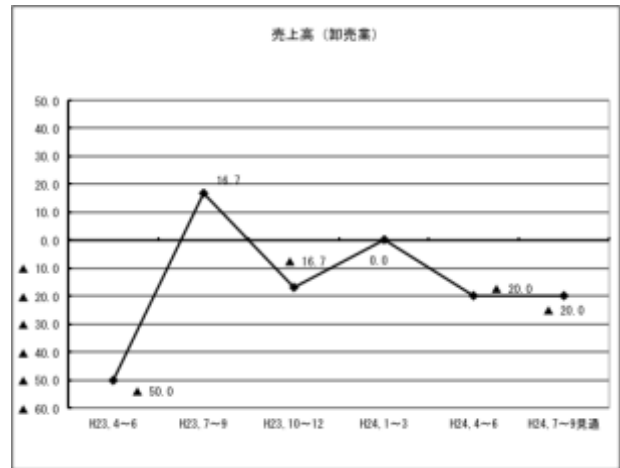
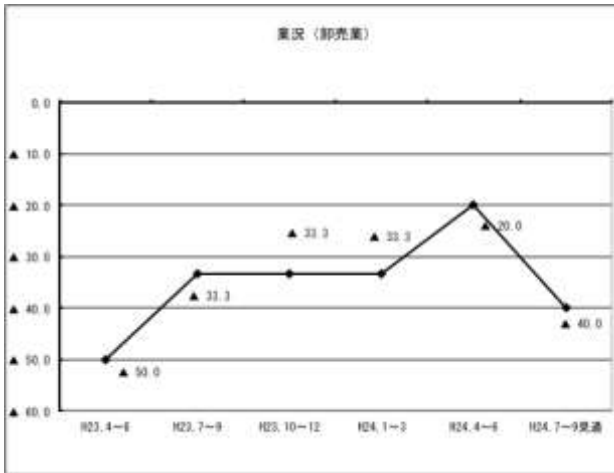
卸売業

卸売業の業況DIは▲20.0と前回調査より13.3ポイント上昇した。▲33.3という値が3四半期続いた後で▲20.0となったので、回復へ動き出したかのように見えるが、7～9月期見通しが▲40.0となっているのが気にかかる所である。

売上高DIは▲20.0と前回調査の0から20ポイント下落した。過去4回は回復と下落を繰り返しているので今回もその動きの延長と見ることができるが、7～9月期見通しでは4～6月期実績と同じ▲20.0であり、次回調査時点で回復できているかは注意点である。

採算（経常利益）DIは▲100.0となった。これは調査対象の全てがこの点について悪化していると回答したということであり、これ以下の値はない。値としてみれば、卸売業の採算は、はっきりと悪いといわざるを得ない。7～9月期見通しは▲80.0なので値は回復しているが、とても良くなっているという範囲ではない。

資金繰りDIは0.0で前回調査より16.7ポイント回復している。採算が非常に悪い中で資金繰りが0.0となっている点は採算と資金繰りは別物と考えるより他ない。7～9月期見通しでも▲20.0と採算のDIほど悪くないのが特徴である。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	4月～6月 期動向	7～9月期見 通し	4月～6月期 動向	7～9月期見 通し	4月～6月期 動向	7～9月期見 通し
全 体	▲35.3	▲32.4	▲44.3	▲21.4	▲50.0	▲37.7
小売業	▲47.4	▲50.0	▲60.0	▲40.0	▲50.0	▲45.0
製造業	▲15.4	▲15.4	▲7.7	30.8	▲15.4	▲8.3
建設業	▲18.2	▲8.3	▲25.0	16.7	▲41.7	▲16.7
サービス業	▲50.0	▲40.0	▲70.0	▲60.0	▲65.0	▲50.0
卸売業	▲20.0	▲40.0	▲20.0	▲20.0	▲100.0	▲80.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	4月～6月 期動向	7～9月期見 通し	4月～6月期 動向	7～9月期見 通し	4月～6月期 動向	7～9月期見 通し
全 体	▲8.6	▲2.9	▲27.7	▲32.1	▲15.2	▲20.3
小売業	▲25.0	▲10.0	▲23.5	▲29.4	▲23.5	▲23.5
製造業	53.8	41.7	▲46.2	▲33.3	16.7	▲9.1
建設業	8.3	8.3	9.1	18.2	▲16.7	▲8.3
サービス業	▲35.0	▲21.1	▲42.1	▲42.1	▲35.0	▲36.8
卸売業	▲40.0	▲40.0	▲20.0	▲40.0	20.0	0.0

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	4月～6月 期動向	7～9月期見 通し	4月～6月期 動向	7～9月期見 通し	4月～6月期 動向	7～9月期見 通し
全 体	▲15.9	▲14.3	▲1.8	▲3.7	8.0	4.1
小売業	▲11.1	▲22.2	▲13.3	▲13.3	0.0	0.0
製造業	▲9.1	18.2	18.2	0.0	9.1	0.0
建設業	▲8.3	▲9.1	▲10.0	▲10.0	10.0	0.0
サービス業	▲35.3	▲27.8	0.0	7.1	18.2	20.0
卸売業	0.0	▲20.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

